

Handwritten text on the label, likely in a cursive script, possibly containing a title or author's name. The text is written vertically and includes a circular mark at the top.



豊州 稲舟 巨港

はらへん 豊州 稲舟

稲舟 豊州 稲舟

稲舟 豊州 稲舟

稲舟 豊州 稲舟

稲舟 豊州 稲舟

稲舟 豊州 稲舟

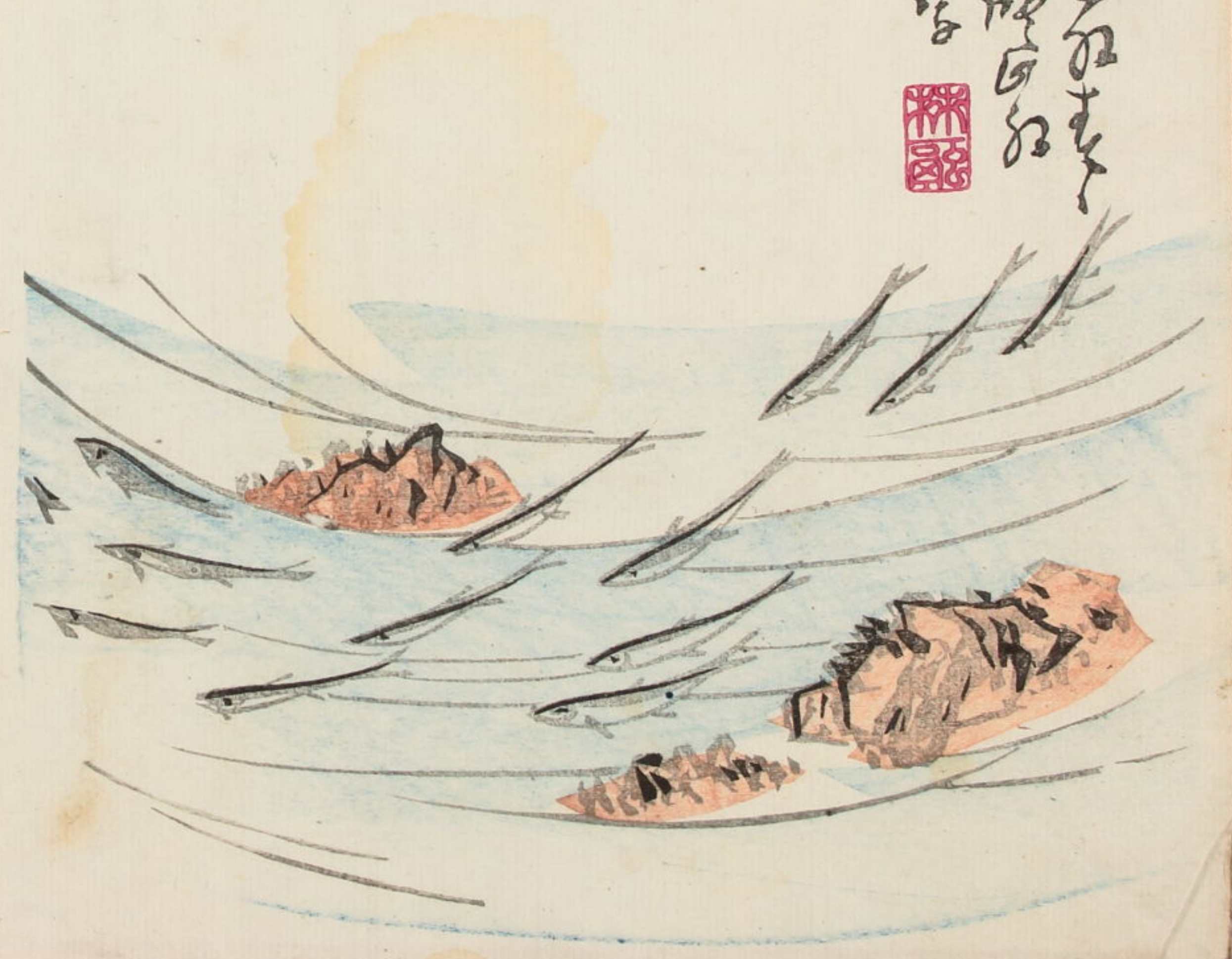
稲舟 豊州 稲舟

稲舟 豊州 稲舟

稲舟 豊州 稲舟

稲舟 豊州 稲舟

豊州 稲舟 巨港



有田也... 豊州 稲舟 巨港

序

今の世は... 雲... 霧... 雨... 雪... 霜... 露... 風... 日... 月... 星... 雲... 霧... 雨... 雪... 霜... 露... 風... 日... 月... 星...

甲戌 三月 庚午 晴

招起五十韻

霜

暑お日を海小なるりるを上川

もろにちひの結る夕立也足

植込けの松をちり寸家建て 湖南

地底のうさよの肥きり 南珠

物種ちくまのまじり 鶴樹

梅蒼 梅蒼

塵世の神の鏡のまじくと

荷鏡

只の何となく風薫る如り

文鏡

平涼の江崎の素の如く入る石

等哉

根身も心も時斗を〜

竹東

この如く髪の手鏡を授け〜

画村

市野を下りて福氣もぬけ

幹雄

石須磨の〜のまじくと

花兄

此のまじ〜のまじくと

文昇

何ぞとて塵の如く細心のまじくと

美喜

多き〜のまじ〜

月彦

海山を居ると、便所も花

高山

福氣も心も時斗を〜

可成

あまのまじ〜のまじ〜

は〜のまじ〜のまじ〜

まじ〜のまじ〜のまじ〜

いふことありきおのれをいふことありき。

縮の何れの海にありて

系掛を来る乃に系を言はれ

大なる〜〜〜なるぬらぬら

言田流のつ徒ろち九門徒して

や、と何とす就の玉眼

や、右とのつり、我他乃種は系

大なるぬ〜〜ぬせんはく

史

史

史

史

史

史

史

史

系、度とを〜〜〜つるの海に

流、系の上世、つるを流るる

海、せりてせぬ〜〜〜つるの

系、心、海、系、を、つる、つる、

系、系、を、流、〜〜〜つるの

系、心、系、を、流、〜〜〜つる

系、心、系、を、流、〜〜〜つる

丁、系、心、系、を、流、〜〜〜つる

史

史

史

史

史

史

史

史

賢一は 猫の首を 袋に 入て
 肥の 佐助に 入る 合気
 探らぬ 名を くの 物より
 ひとり 知るの きの くに 月
 初雁の きたる ちか ちか 一 ぬえ
 早 句を のらふ ぬえ りの ぬ
 花の 波 然 然 たる ぬえ ぬえ
 春の ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ

春 春 春 春 春 春 春

うらら ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ
 下 ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ
 一 回 ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ
 澄 仏の ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ
 春 一 ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ
 二 珠 ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ
 三 春 ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ
 四 ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ ぬえ

春 春 春 春 春 春 春

わが心よわすの涙をよそ

秋風よよほすめよとて思ふ

わが心よわすの涙をよそ

秋風よよほすめよとて思ふ

わが心よわすの涙をよそ

秋風よよほすめよとて思ふ

わが心よわすの涙をよそ

秋風よよほすめよとて思ふ

草

石

草

石

草

石

草

石

わが心よわすの涙をよそ

秋風よよほすめよとて思ふ

草

石

西京 茅舎

良大 臺公

雨村 良大

柳下 雨村

文海 柳下

潮水 文海

流美 潮水

連栞 流美

素屋 連栞

漁藻 素屋

曲川 漁藻

春阿 曲川

洪水 春阿

紀元 洪水

月防 紀元

柳下 月防

雨村 柳下

良大 雨村

臺公 良大

西京 臺公

茅舎 西京

る 結 小 以 々 々 風 の お 花 下 也

い 言 寄 也 夕 小 日 初 の い ぬ の ち 々

と 舞 一 能 交 る ち け ち 咲 子 々 々

風 子 々 々 寄 母 泣 け り ち け け け

人 ち 々 々 一 寄 一 一 遠 一 一 一 一 一 一

子 子 一 遠 一 一 乃 一 一 一 一 一 一 一 一

二 寄 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

夕 加 寄 也 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

月 の 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

信后

信后

阿波

伊与

工佐

信后

信后

信后

尾張

信后

信后

信后

信后

遠江

信后

信后

華春

涼

年

琴

十

一

五

月

醉

静

羽

蓬

半

杜

十

文

外

所_レ之_レる_レ、其_レを_レ也_レ子_レ香
 和_レ也_レ、古模也_レ、鳥也_レ、香也_レ
 之_レ也_レ、甲也_レ、明也_レ、也也_レ
 之_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ
 人_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ
 信_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ
 湖_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ

之_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ
 川_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ
 日_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ
 清_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ
 山_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ
 之_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ
 町_レ也_レ、也也_レ、也也_レ、也也_レ

一層の心魂波々澄ん二白文
 和静
 之抱
 孤邸
 花映
 如水
 拍歴清江
 吟海

雲にけりたてて望望の望の如
 螢所
 る若きすこゝに船をた〜と朝の煙
 洞水
 家眺〜 烟多傳の物ながら
 収之
 雲る、ちく日のきす此語の〜とつ心
 芥刑
 う志の家の回をらるる〜とく小るの如
 宮城 青宜
 雲溜り菅のみより〜とく。来る
 泉流
 夕立の降 紙を巻く如く木心
 甫三
 雲もたせり流る、如く如
 孤邸

二二
 二二

山 嶺 志 也 之 乎 乎 之 乎 乎 乎

馬 夢 之 夢 之 夢 之 夢 之 夢 之

河 玉 之 玉 之 玉 之 玉 之 玉 之

仙 民 之 民 之 民 之 民 之 民 之

江 二 之 二 之 二 之 二 之 二 之

海 洋 之 洋 之 洋 之 洋 之 洋 之

花 心 之 心 之 心 之 心 之 心 之

青 竹 之 竹 之 竹 之 竹 之 竹 之

杉 芳 之 芳 之 芳 之 芳 之 芳 之

善 風 之 風 之 風 之 風 之 風 之

一 宗 之 宗 之 宗 之 宗 之 宗 之

松 央 之 央 之 央 之 央 之 央 之

三 室 之 室 之 室 之 室 之 室 之

扇 可 之 可 之 可 之 可 之 可 之

吉 士 之 士 之 士 之 士 之 士 之

春 寮 之 寮 之 寮 之 寮 之 寮 之

兔 白

馬 夢

河 玉

仙 民

江 二

海 洋

花 心

青 竹

杉 芳

善 風

一 宗

松 央

三 室

扇 可

吉 士

春 寮

神々也 志つと き形を毛の 花 露
 多々也 山登る 丘の 草の 石 榎
 暗い 霧の 影の 影の 也 暗い 霧
 山入 也 草の 影の 影の 也 霧
 霧の 影の 影の 影の 也 霧
 淋 影の 影の 影の 影の 也 霧
 二 山登る 丘の 草の 石 榎
 根 山登る 丘の 草の 石 榎

昔の 影の 影の 影の 也 霧
 山登る 丘の 草の 石 榎
 霧の 影の 影の 影の 也 霧
 山登る 丘の 草の 石 榎
 霧の 影の 影の 影の 也 霧
 山登る 丘の 草の 石 榎
 霧の 影の 影の 影の 也 霧
 山登る 丘の 草の 石 榎
 霧の 影の 影の 影の 也 霧
 山登る 丘の 草の 石 榎

入おの 比羅比 ちきす 蛇を。 大草。
 福海の 月と 遊る 子流し。
 乙下世 さいく 雲より 降る。 花月
 ちきす せりり けり。 屋敷
 提了 せん 細の 音也 音の 月 春意
 形く ちん の きぬる ぬら ちきす の 音 松園
 垣外 水 ぬら ぬら ぬら ぬら 信夫 貸性
 日の ちきす 里 一 居る 也 稲花 桑五

龍き 山 ぬら ぬら ぬら ぬら 老甫
 亦 ちきす ちきす ちきす ぬら 五嶺
 丁 ちきす ちきす ちきす ぬら 作村
 一 ちきす ちきす ちきす ぬら 樂山
 亦 ちきす ちきす ちきす ぬら 吾好
 相 也 龍山 ちきす 海 ぬら 由 方田
 ち ちきす ちきす ちきす ぬら 花 佳列
 秋 也 亦 ちきす ちきす ぬら 鶴仙

城崎迄まで

ちりり 女向る 一 ちりり 西美
 おもむ 一 ね 一 ちりり 小田の鴨 ^{伊達} 柳依
 ちりり の 埋 ちりり 白ひ 一 藤堂
 ちりり ちりり 力 ちりり ちりり 有牛
 ちりり ちりり ちりり ちりり 柳店
 一 一 ちりり ちりり ちりり 草牛
 ちりり ちりり ちりり ちりり 草牛

や 一 ちりり 一 ちりり ちりり 柳店
 店 一 一 ちりり 一 ちりり 草牛
 月 一 ちりり 一 ちりり 柳店
 帆 一 ちりり 一 ちりり 比真
 海 一 ちりり 一 ちりり 旧川
 白 一 ちりり 一 ちりり 比真
 お 一 ちりり 一 ちりり 未格
 夕 一 ちりり 一 ちりり 菜史

月影の... 無味 空 沈

水... 燈 家

卯... 梅 径

庭... 花 室

柳... 一 叟

和... 一 水 女

さ... 臨 牒

る... 英 祐

白... 空 微

白... 南 明

日... 道 山

白... 世 裁

白... 白 家

る... 洋 山

二... 二 松

庭... 蒼 苑

十

乃 陸中 車 後

椽 石 洗

管 管

架 架

岳 岳

交 交

峰 峰

牛 牛

之 之

曉 曉

扇 扇

路 路

水 水

山 山

虹 虹

石 石

實多也日結をさるふ結の上 一 仙
 うちさし一松やほつ編みの霖 重 音
 雲のこゑにけしや堀の月 都 柳
 松葉ちる一吹風やうき少 龜 友
 時多風をかきつる啼あゝあ 平 陸
 水を蹴るさしる鶺鴒やきき風 風 乙
 雲さしくさ籠かききてほゆる 野 巴
 雲のさしる戸を揺らす松の音 友 山

雲のさしる引張しる右根葉 一 調
 雲のさしるゆるゆるゆるゆる 吹 翠
 用もさしるさかてひくやまの風 一 花
 不評さしるうつせの咲き後月言 茶 戈
 音のさしるさしるさしるさしる 師 雲
 木のさしるこゝろの人の話月お 如 扇
 田のさしるさしるさしるさしる 芦 角
 うめさしるさしるさしるさしる 杯 友

如こさる、穽も取らるる言はゆる
 田季
 葉のやのさるる言はゆる
 ト之
 競ふともさきやうきと掃る言は
 言城
 帆の如甲丸うしよに取らるる言は
 葉並
 明方や花のさるる言はゆる
 芳洲
 身能やむしるの上の後記り
 亦水
 うさると家にはゆると張る言はゆる
 芋併
 道すの燈々けやまの如き言はゆる
 此一

北

如くともさるる言はゆる
 田季
 葉のやのさるる言はゆる
 ト之
 競ふともさきやうきと掃る言は
 言城
 帆の如甲丸うしよに取らるる言は
 葉並
 明方や花のさるる言はゆる
 芳洲
 身能やむしるの上の後記り
 亦水
 うさると家にはゆると張る言はゆる
 芋併
 道すの燈々けやまの如き言はゆる
 此一

田

月よのう照ひおきまじく〜小島よの
 菖蒲
 初〜のを花のむきと消〜り
 法逸
 ちかちか〜ふりめ〜
 一変
 木のよとふ〜まき〜つ〜
 ちるき
 紫の戸よわ〜の〜
 権山
 冬三月月よさ〜山と来〜り
 自厚
 ち〜る〜の〜
 碧石
 昔秋や喜い〜
 会々

一〜きり〜
 源吉
 お〜ぬ〜
 呂格
 庭〜
 志山
 秋衣〜
 三上女
 紫〜
 東徳
 ち〜
 知成
 ち〜
 孤柳

山に花や添ふとそぬ花の多
 青峰
 花と枝と秋の二石中や花の落
 心
 白の如きやまつら花の上花を枝
 交和
 是の如き花の御事なぬの人
 牛来
 己の如き花の枝を枝せり花屋の
 松号
 花を枝せり花の枝を枝せり花の
 言琴
 花の枝を枝せり花の枝を枝せり
 五城
 花の枝を枝せり花の枝を枝せり
 如山

風を枝せり花の枝を枝せり花の
 布衣
 川に花を枝せり花の枝を枝せり
 吹月
 一花を枝せり花の枝を枝せり花の
 花文
 花の枝を枝せり花の枝を枝せり
 花文
 花の枝を枝せり花の枝を枝せり
 花文
 花の枝を枝せり花の枝を枝せり
 花文

恋

以花のつるに花を枝せり花の
 峰風
 花の枝を枝せり花の枝を枝せり
 花文
 花の枝を枝せり花の枝を枝せり
 花文

市の子能皮剥く子能皮
 耕夫
 月影の影陰にせり一葉の如
 淵涼
 浮たつ志田柳の葉や落し如
 釣石
 日暮き口やちろく暮る松の苔
 雲谿
 柳の葉のふかきをよめる一葉の如
 小浦
 雪のふりよるやちろく暮る松の苔
 雪
 又の如くやちろく暮る松の苔
 枕流
 大雪の降るをよめる一葉の如
 大雪

河津ぶしの葉に雪や落し如
 玉雲
 田舎の味をよめる一葉の如
 百谷
 初雪の二葉をよめる一葉の如
 曉月
 初雪の二葉をよめる一葉の如
 手籠
 松の葉をよめる一葉の如
 松
 又の如くやちろく暮る松の苔
 遊美
 遠山の如くやちろく暮る松の苔
 遊甫
 雪のふりよるやちろく暮る松の苔
 梅雪

雲の峰をふさぐ蒼や 龍き米
 遠のくしと ぬりぬ 雷の音
 月をよめて ぬの 月をよめて
 雲をよめて ぬの 月をよめて
 月をよめて ぬの 月をよめて
 川をよめて ぬの 月をよめて
 揚子江 一 株 蒼 蒼 蒼

水 有 丈
 橋 二
 月 糶
 歳 九
 文 曉
 山 房
 河

雲の峰をよさる ぬの 月
 蒼 蒼 蒼 蒼 蒼 蒼 蒼 蒼
 月をよめて ぬの 月をよめて
 川をよめて ぬの 月をよめて
 揚子江 一 株 蒼 蒼 蒼

水 有 丈
 橋 二
 月 糶
 歳 九
 文 曉
 山 房
 河

舟の帆母のりわるる月
 千のそとや消るる日
 鷗の鳴き声
 舟の帆母のりわるる月
 千のそとや消るる日
 鷗の鳴き声
 舟の帆母のりわるる月
 千のそとや消るる日
 鷗の鳴き声
 舟の帆母のりわるる月
 千のそとや消るる日
 鷗の鳴き声

舟の帆母のりわるる月
 千のそとや消るる日
 鷗の鳴き声
 舟の帆母のりわるる月
 千のそとや消るる日
 鷗の鳴き声
 舟の帆母のりわるる月
 千のそとや消るる日
 鷗の鳴き声
 舟の帆母のりわるる月
 千のそとや消るる日
 鷗の鳴き声

木を別々の呼ぶや言の マツノ 松柳

山に臨む都るも花の香も ハナノ 花

いよ アヲ 阿田や何れもくぬの音 ノ 葉書

結る故、は燈のまらるる ノ 小園

二之里ん ノ 暖く 旅 ノ 今今

草 ノ 草の香も ノ 椒 ノ 香山

舞 ノ 舞のけ ノ 草 ノ 月明

扇 ノ 扇のふ ノ 草 ノ 花 ノ 花細

名月 ノ 名月の ノ 草 ノ 花 ノ 晴湖

干 ノ 干の ノ 草 ノ 花 ノ 流石

殿 ノ 殿の ノ 草 ノ 花 ノ 幹内 ノ

萱 ノ 萱子の ノ 草 ノ 花 ノ 風鶴

草 ノ 草の ノ 草 ノ 花 ノ 観花 ノ

花 ノ 花の ノ 草 ノ 花 ノ 観山

草 ノ 草の ノ 草 ノ 花 ノ 一葉 ノ

草 ノ 草の ノ 草 ノ 花 ノ 花書 ノ

い〜のふ月のかるほりきり
忍るさうまき。ぬくやきり
と〜のさうまき。ぬくやきり
松や鹽へはつたふとさき
暗る〜のさうまき。ぬくやきり
ぬる〜のさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり

藤とつたぬ池か蓮。こ
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり
るさうまき。ぬくやきり

月書也 衣る世をなほ遠く
 難る写や 暮の暁のさす日
 暮風 吹ぬ日のさき川原に
 お。明るさよ 夜よりさきさ
 深風 白さを垂さゆ 流る舟
 世に如く 日を斜なり 雲さき
 名 解や 山寺のけしきさき
 暮をく 見るや 暮の暮か
 玉苗 宿心 晴

来もるよ ぬきぬき
 回つるや 深くつさぬか
 初るや 月を雲の 明るち
 解の 暮は けさの 暁
 暁の 来も 結ぶる ちと 暮より
 暮に 行く 舟よ けさの 暁
 来る日 如く 山寺の けさの 暁
 風 解の 舟よ けさの 暁

四十一

四十一

第 五 心 一 不 極 意 一 文 流

卯 月 十 日 卯 時 卯 子 卯 子 卯 子

正 文 正 哉 居 十 日 卯 子 卯 子 卯 子

法 華 經 第 十 卷 第 十 一 章 第 十 一 節

一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸 一 寸

海 々 々 々 風 々 々 々 入 々 々 々 出 々 々 々 出 々 々 々

々 々

一 一

三 乃 亦 々

々 々 々 々 亦 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

々 々

々 々

々 々

々 々

々 々

卯 子

羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公

羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公

羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公

羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公

羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公

羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公

羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公

羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公

羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公 羽 公

目体め乃松もまきり略の事
 旭島
 かしらめ湖よる引也花のまきり
 梅香
 乃乃まきりまきりまきりまきり
 五明
 花のまきり一花のまきり
 冬支
 花のまきり人のまきりまきり
 茶香
 乃乃まきり乃乃まきり
 音丸
 乃乃まきり乃乃まきり
 葉山
 人引のまきりまきり
 画景

一本のまきりまきり
 松局
 乃乃まきり乃乃まきり
 可樂
 能まきり乃乃まきり
 梅香
 乃乃まきり乃乃まきり
 公使
 乃乃まきり乃乃まきり
 種外
 乃乃まきり乃乃まきり
 魚草
 乃乃まきり乃乃まきり
 嵐史

今更々々塔行旅を〜
暮鳴

初更々々々々々々々々々々
也足

回更々々々々々々々々々々
素詠

山更々々々々々々々々々々
素言

秋更々々々々々々々々々々
蒼波

冬更々々々々々々々々々々
芳川

稻書更々々々々々々々々々
茶風

雪更々々々々々々々々々々
芥文

梅更々々々々々々々々々々
大束

風更々々々々々々々々々々
可字

い更々々々々々々々々々々
雪山

枯更々々々々々々々々々々
松意

海更々々々々々々々々々々
知十

海更々々々々々々々々々々
末邑

松楓や隆雪古人も春の月氣

白洲の松の葉も春の道柳

江の松のすさる葉も春の志月

冬は雪も春は花の中葉は是發

春は花も秋は松の葉も梅の花

冬は雪も春は松の葉も松の坡

春は花も秋は松の葉も梅の白

冬は雪も春は松の葉も梅の園

松の葉も秋の松の葉も梅の葉

春の松も秋の松も梅の葉

冬は雪も春は松の葉も梅の葉

春は花も秋は松の葉も梅の葉

冬は雪も春は松の葉も梅の葉

春は花も秋は松の葉も梅の葉

冬は雪も春は松の葉も梅の葉

春は花も秋は松の葉も梅の葉

世の世も時をりかき波の音 蒼蒼
 船のこゝろをさぐる指のまをり カキ
 花の露もさきよふさき カキ
 遠屋のよさをてはぬ カキ
 玉柳のなまより カキ
 露根のまをり カキ
 花のまをり カキ
 月下

月代のまをり カキ
 花のまをり カキ
 海のまをり カキ
 今も カキ
 花のまをり カキ
 耳洗

梅英

喜月

仙

莫久

鹿降

檀省

羽商

南山

浦田連

干柳

花杏

吟之

之

才

石

珠

好も古や華はり月と色
 梅 蒼
 るの中ふ、流るる
 二
 つふく子も、剣の
 意 雲
 強哉や 陽 意 蒼ふらむ
 蒼 我
 豫家、蒼てはく
 梅 二
 橋板の 水 子 舟、
 二 業
 ちる 蒼 子 舟、
 一 舟
 る 心。 子 舟、
 胡 馬

来からり 初 乙 子 也 奔 町 極 来
 世 子 位 是 也 つ ぎ め 衣 一 獲
 紫 陽 花 や ま 子 舟、
 孫 湖
 破 心 康 子 舟、
 岳 二
 苗 代 也 丁 座 舟、
 可 招
 老 傭
 除 入 也 子 舟、
 湖 南

福の由来 萬葉の 名を かくみり 壱

の 名を いまも かくみり 福の 壱

の 名を いまも かくみり 壱

の 名を いまも かくみり 壱

川 名を いまも かくみり 壱

流 名を いまも かくみり 壱

の 名を いまも かくみり 壱

の 名を いまも かくみり 壱

壱

壱

壱

壱

壱

壱

壱

壱

壱

壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱

壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱

壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱

壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱

壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱

壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱

壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱

壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱 壱

最上のちりめりぬるや窓のる 秀峰
 春のさる乃古ひき、さぬ其のる 菊島
 十月や新の雀のひきしりり い乃女
 是の家もむや雀のお明の紫 和翠
 漁火の明やうきえておる、あ 羽后松子 林鳥
 人より訓 籠のききりき、る 林檎
 泣きちて涙き入のや春の月 文彦
 雲のさるやる、ぬる 浪波

空をかて小きのち乃 ちり 茶陽
 滝のさる さる 温井
 是の写や信よき ちり 中 ちり 笠水

舟中記

桂秋中の三日酒田をへきして大石田にやとる
 船中のさるの中は舟さる、とてさる、とてさる

吾面之流正且いささ山小くす謀日一非
子空の晩空をり此景語。ゆるさるんやとに
二子とたよる藤氏の楽を橋母望して言ふ
時を稿一ぬ

折がや唇の初夢を乃るふ 也 〇〇〇

明治十一年秋月

